

# 子どもの生活実態調査の結果について

## 1. 子どもの生活に関する実態調査（以下、アンケート調査）

調査対象	4～5歳、小学2年生の保護者 小学5年生、中学2年生、16～17歳の子どもと保護者 各1,200件、6,000世帯 (内、ひとり親世帯1,297世帯)
調査方法	郵送配布、無記名郵送回答無作為抽出（保護者の重複なし）
調査期間	令和3年7月2日～7月30日
回答率	41.1%

※前回調査では、全世帯無作為抽出により送付しましたが、今回調査はひとり親家庭に対する調査の視点が必要であるため、ひとり親世帯については児童扶養手当認定者へ案内を送付しました。抽出方法が前回調査と一部異なるため、調査結果を単純比較できるものではありません。

## 2. 本調査における生活困窮層の定義

※1 本調査では、本市における「生活困窮」を以下の3つの要素に基づいて分類しました。

① 低所得	世帯所得が厚生労働省「令和元年国民生活基礎調査」から算出される基準（世帯所得の中央値を平均世帯人数の平方根で除した値の50%未満=127万円）の世帯
② 家計のひっ迫	「通信費（固定電話・スマートフォン料金等含）」、「光熱水費」、「家賃」、「住宅ローン」、「税金、国民健康保険、国民年金」、「保育料、学費、給食費」、「その他の債務」の7項目のうち1項目以上該当する世帯
③ 子どもの体験や所有物の欠如	「海水浴・プールに行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「スポーツ観戦や映画館に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」、「毎月お小遣いを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（又は家庭教師）」、「お誕生日のお祝いをする」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」の13項目のうち3項目以上該当する世帯

※2 本調査における生活困窮層については、以下の2点に該当した世帯としました。

- ・①に該当した世帯 …右の「生活困窮層の割合」の表の低所得層A
- ・②又は③にのみ該当した世帯については、所得が①の1.5倍の190.5万円未満の世帯 …右の「生活困窮層の割合」の表の低所得層B

※3 ①に加えて、②、③の項目に該当する世帯を加え、①の所得データだけでは捕捉できない生活困窮層を捉えようとしてきました。

※4 ①の低所得は、厚生労働省が用いている指標ですが、本調査では、回答者が回答しやすいよう世帯所得の単位を広くとっていること、所得の記入については本人が正確な金額を把握せずに記入している可能性もあることから、あくまで概算になります。

※5 前回調査までは「相対的貧困層」と記載していましたが、国の定義する相対的貧困層の算出方法と異なっており、名称の混同を避けるため、今回調査より「生活困窮層」に記載を変更しています。

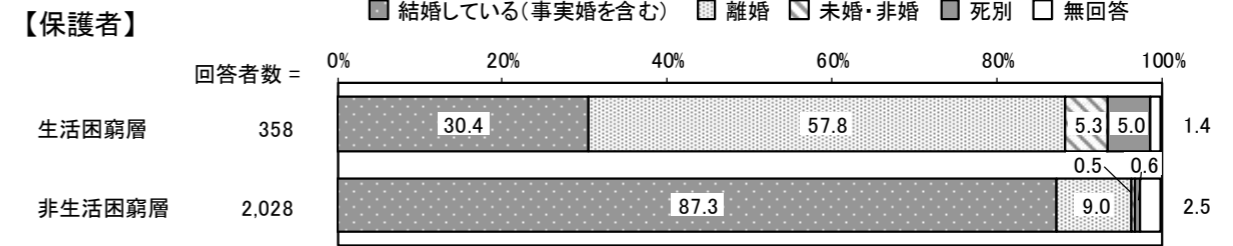
## 3. 調査結果

### I 世帯の状況

#### (1) 生活困窮層の割合

子どもの年齢区分		生活困窮層（低所得層A + 低所得層B）			一般層	不明	合計
		低所得層A	低所得層B				
4～5歳	有効回答数	67	53	14	532	55	654
		10.2%	8.1%	2.1%	81.3%	8.4%	100.00%
小学2年生	有効回答数	73	60	13	531	66	670
		10.9%	9.0%	1.9%	79.3%	9.9%	100.00%
小学5年生	有効回答数	66	52	14	371	56	493
		13.4%	10.5%	2.8%	75.3%	11.4%	100.00%
中学2年生	有効回答数	70	57	13	321	46	437
		16.0%	13.0%	3.0%	73.5%	10.5%	100.00%
16～17歳	有効回答数	82	65	17	273	32	387
		21.2%	16.8%	4.4%	70.5%	8.3%	100.00%
合計	有効回答数	358	287	71	2,028	255	2,641
		13.6%	10.9%	2.7%	76.8%	9.7%	100.00%

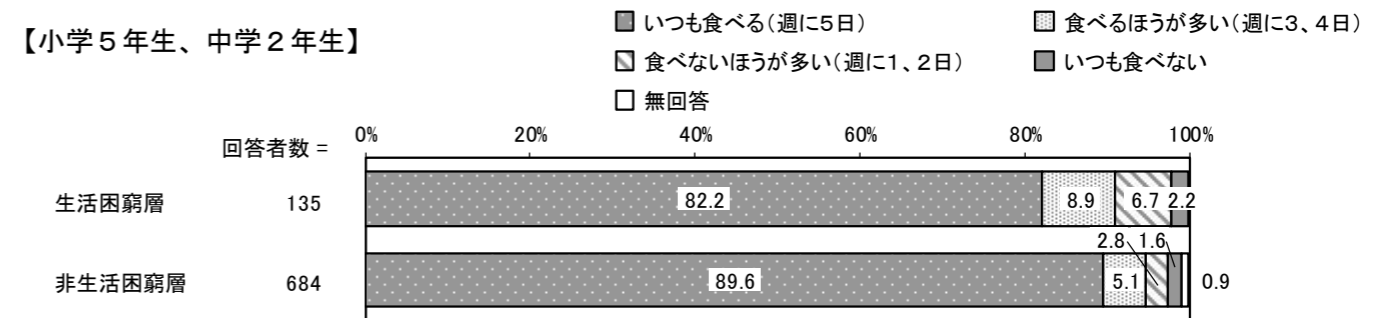
(2) 生活困窮層でひとり親家庭（保護者が「離婚」、「未婚・非婚」、「死別」）の割合が高くなっています。



### II 日常生活の状況、親と子の関わり

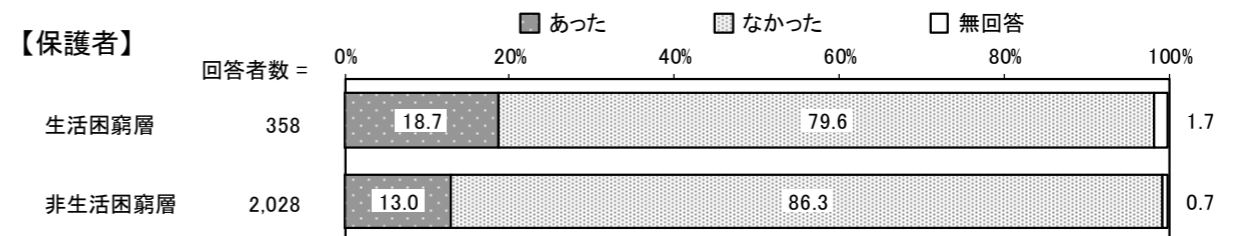
#### (1) 平日朝食を毎日食べるか

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「いつも食べる（週に5日）」の割合が低くなっています。



(2) 過去1年間に、子どもを医療機関に受診させた方が良かったと思っただが、実際にはさせなかった割合

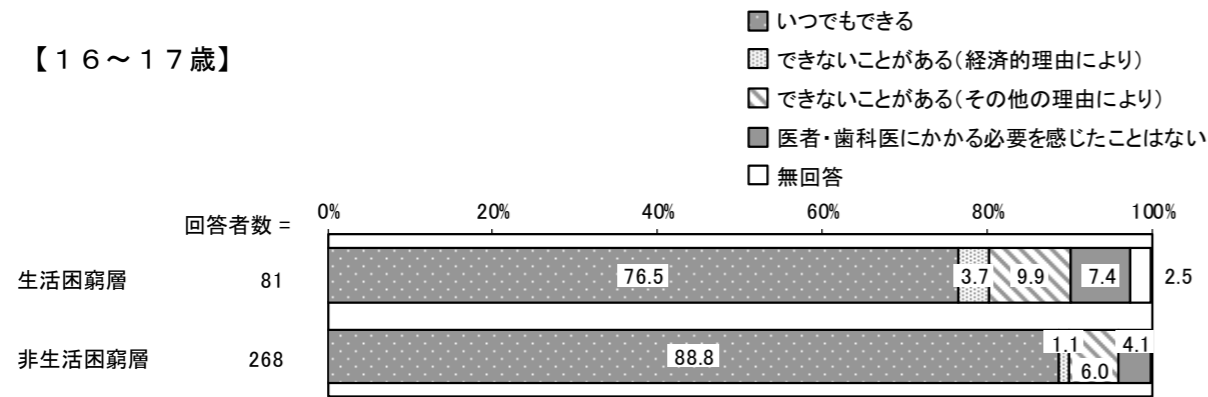
生活困窮層で「あった」の割合が高くなっています。



(3) 自分が必要だと思うときに、病院を受診できるか

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「いつでもできる」の割合が低くなっています。

【16～17歳】

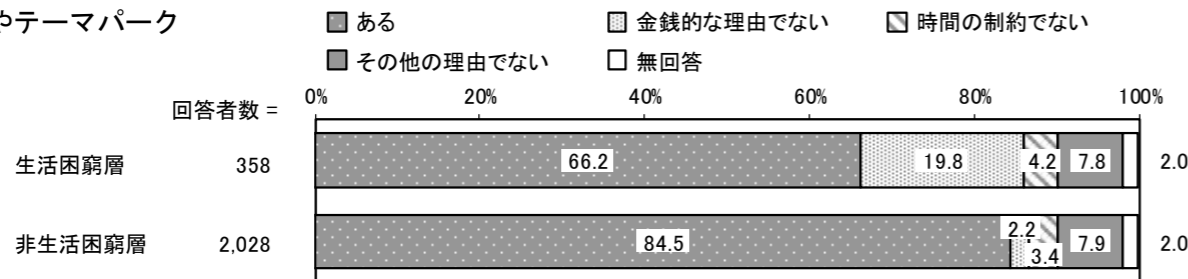


(4) 子どもとの外出(コロナ以前)

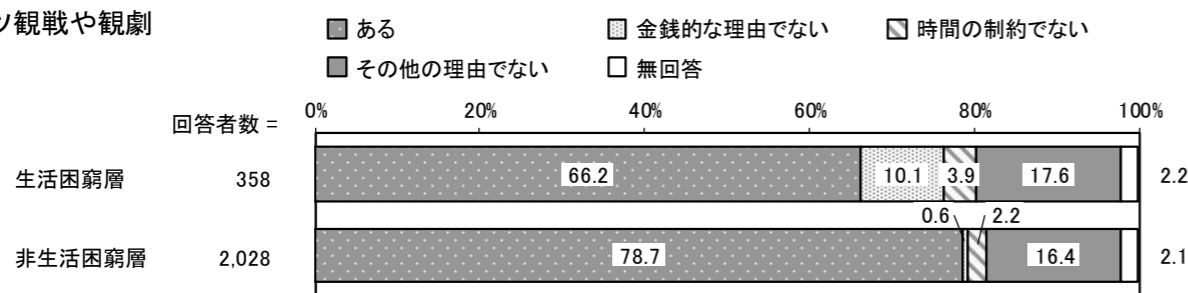
非生活困窮層で「ある」の割合が高くなっており、生活困窮層で「金銭的な理由でない」や「時間の制約でない」が項目により高くなる傾向にあります。

【保護者】

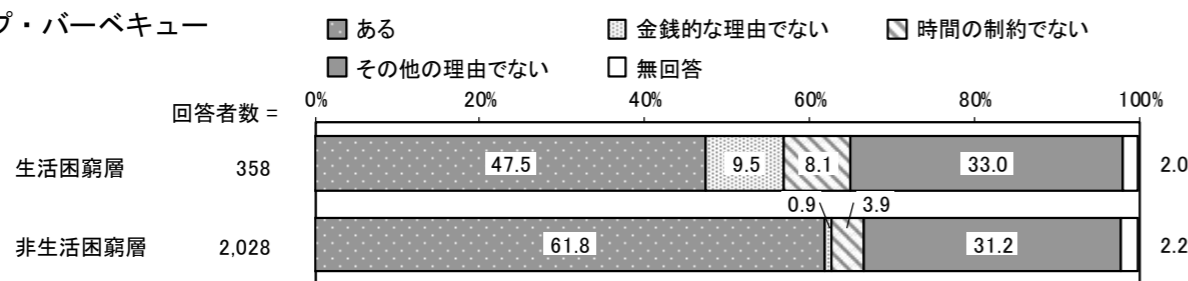
・遊園地やテーマパーク



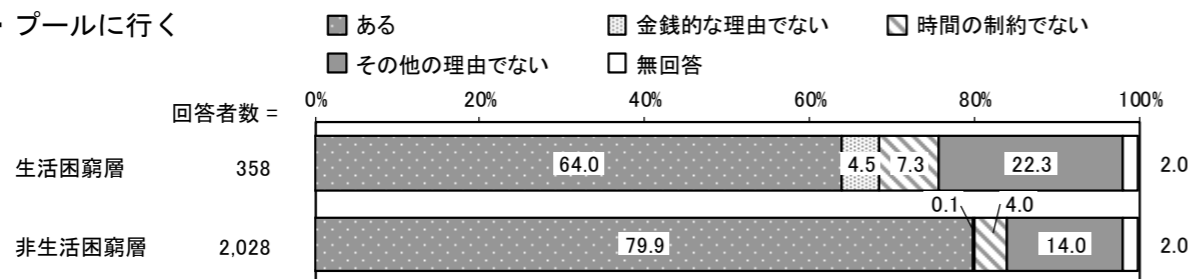
・スポーツ観戦や観劇



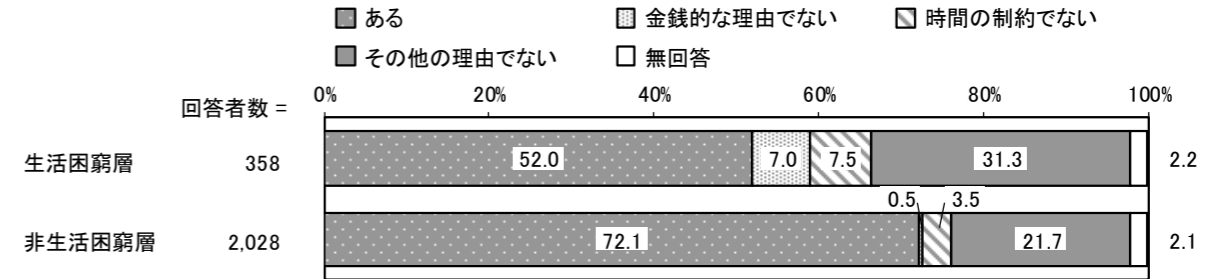
・キャンプ・バーベキュー



・海水浴・プールに行く



・博物館・科学館・美術館などに行く



(5) 経済的理由で家庭に不足しているもの

生活困窮層で「急な出費のための貯金(5万円以上)」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「インターネットに接続できる環境(Wi-fi等)」の割合が高くなっています。一方で、非生活困窮層では「あてはまるものはない」の割合が高くなっています。

【保護者】

(複数回答可) 単位: %

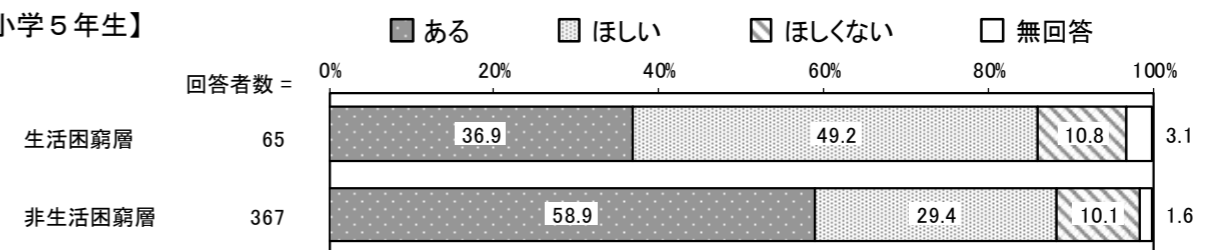
区分	回答者数(件)	子どもが自宅で宿題をすることができる場所	子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	子どもが年齢に合った本	洗濯機	炊飯器	掃除機	暖房機器	冷房機器	電子レンジ	電話(固定電話・携帯電話を含む)	インターネットに接続できる環境(Wi-fi等)	新聞の定期購読(ネット含む)	世帯専用のお風呂	世帯人数分のベッドまたは布団	自動車	急な出費のための貯金(5万円以上)	あてはまるものはない	無回答
生活困窮層	358	13.1	8.4	14.2	0.3	-	0.3	1.4	3.4	0.3	3.1	6.4	33.5	1.1	9.5	7.8	31.6	30.4	7.5
非生活困窮層	2,028	1.0	0.9	1.5	0.1	0.2	0.1	0.3	0.7	0.2	0.7	1.3	10.4	0.2	1.5	0.4	5.7	71.5	11.9

(6) 自分用のものがなく、欲しいもの(上位5つ)

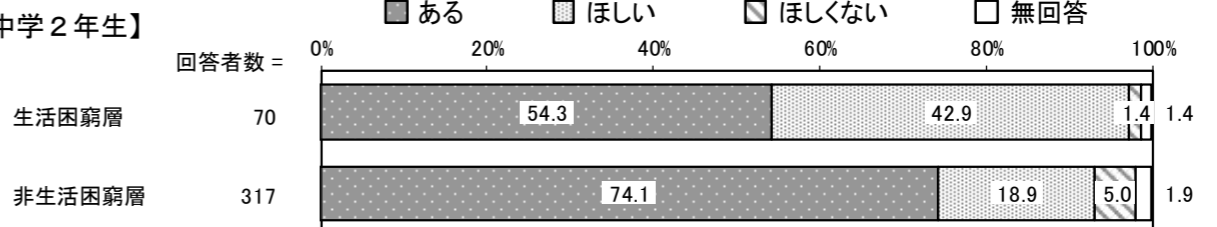
① 自分専用の部屋

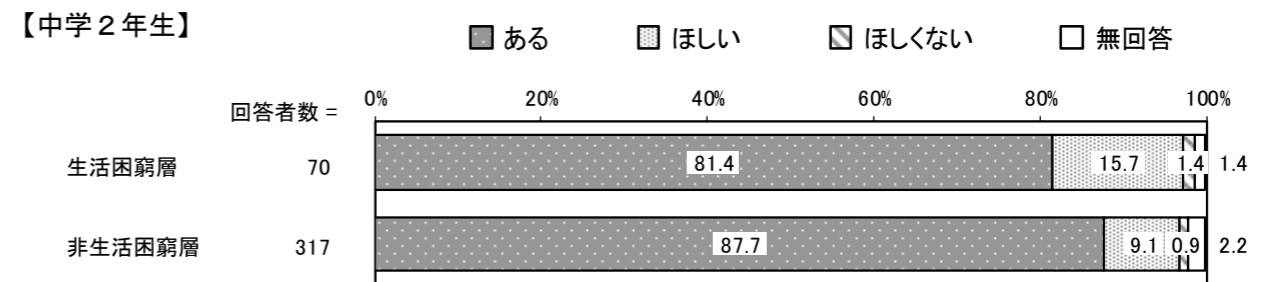
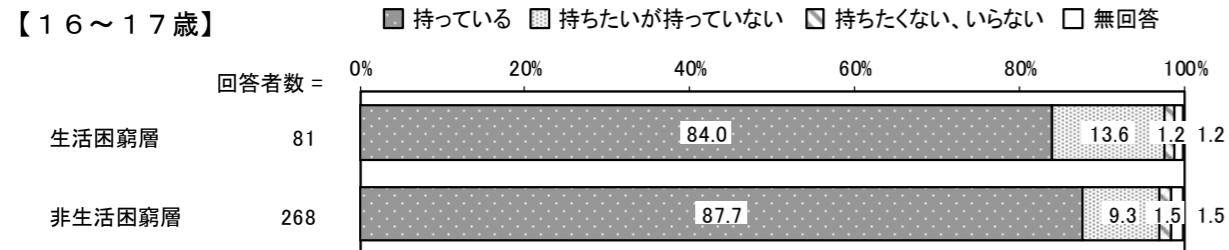
小学5年生・中学2年生で生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「ある・持っている」の割合が高くなっています。一方、非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「ほしい・持ちたいが持っていない」の割合が高くなっています。

【小学5年生】



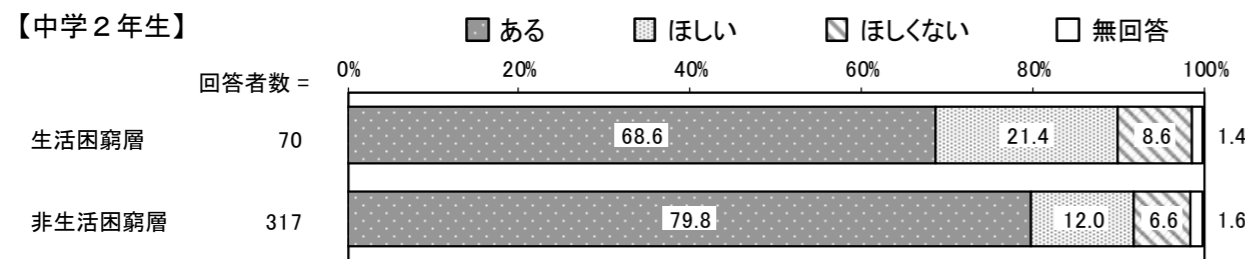
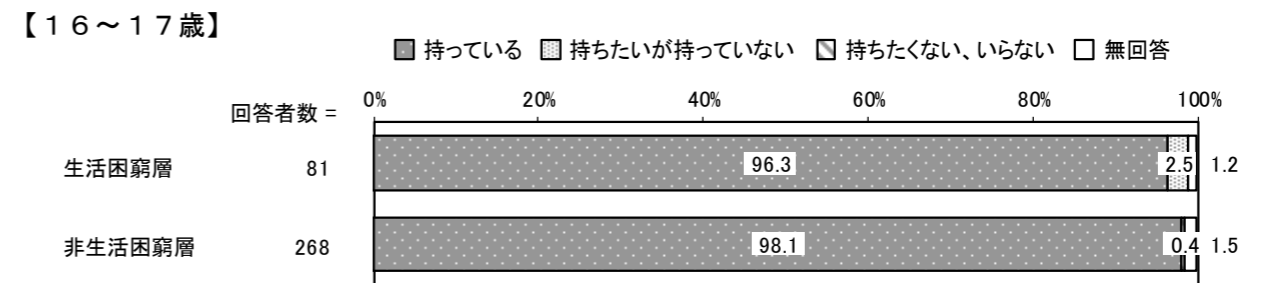
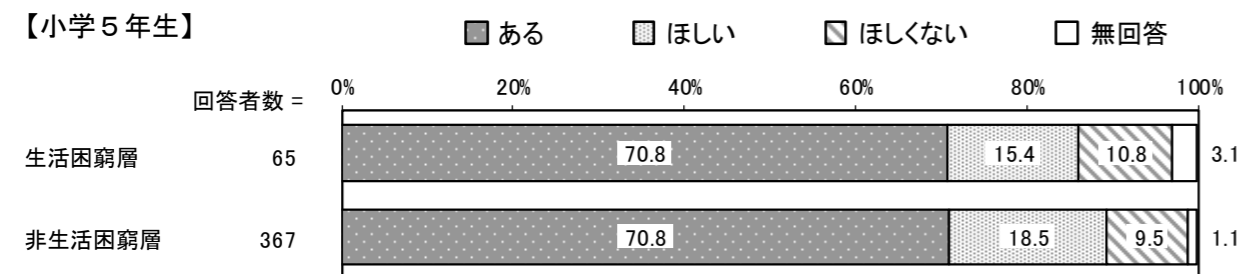
【中学2年生】





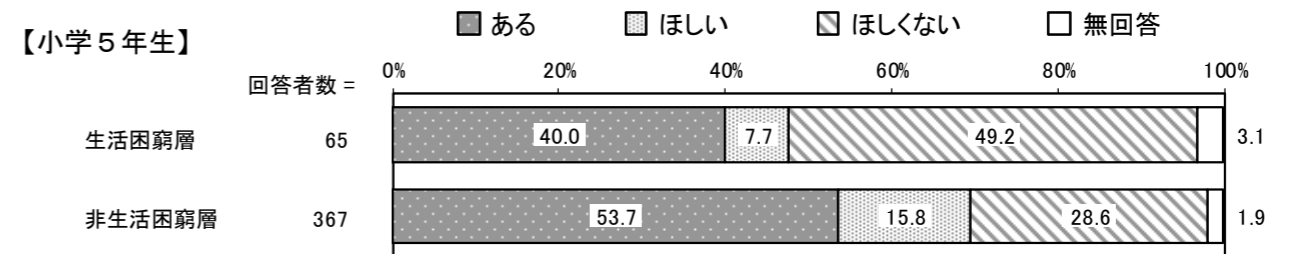
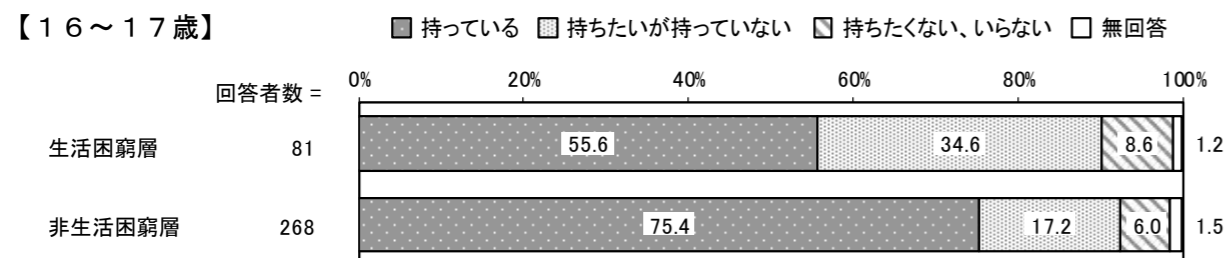
② おやつやちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

中学2年生・16～17歳で生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「ある・持っている」の割合が高くなっている一方、非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「ほしい・持ちたいが持っていない」の割合が高くなっています。



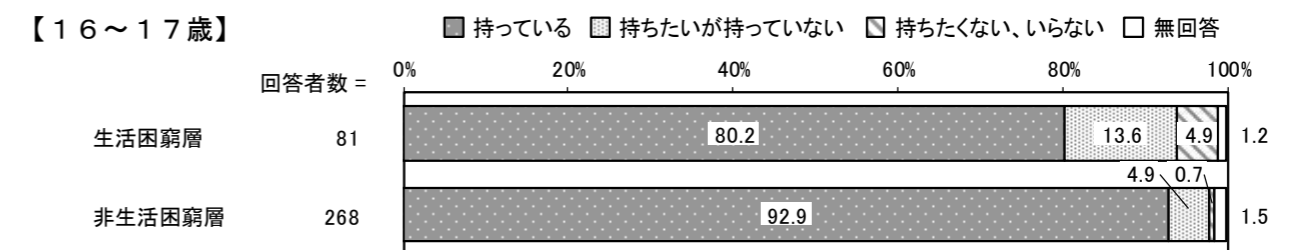
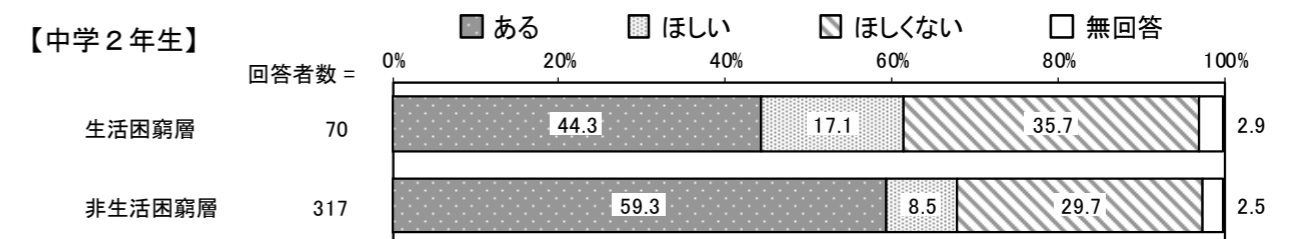
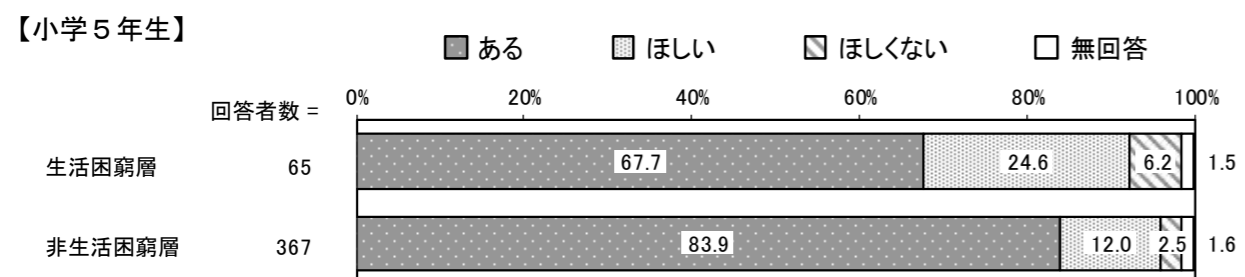
④ 友達が着ているのと同じような服

すべての年齢層で生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「ある・持っている」の割合が高くなっています。一方、非生活困窮層に比べ、中学2年生・16～17歳の生活困窮層で「ほしい・持ちたいが持っていない」の割合が高くなっています。



③ インターネットに繋がるPC、タブレット、スマートフォン

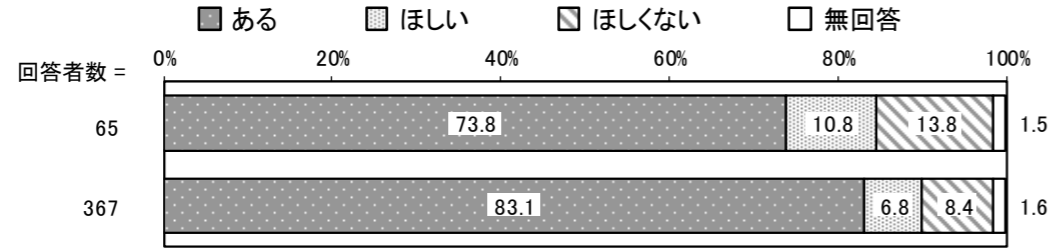
小学5年生・中学2年生で生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「ある・持っている」の割合が高くなっています。一方、非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「ほしい・持ちたいが持っていない」の割合が高くなっています。



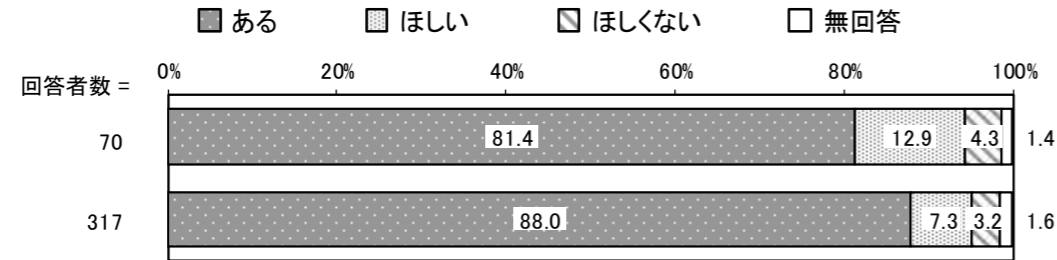
⑤ 2足以上のサイズのあった靴

すべての年齢層で生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「ある・持っている」の割合が高くなっています。一方、非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「ほしい・持ちたいが持っていない」の割合が高い傾向にあります。

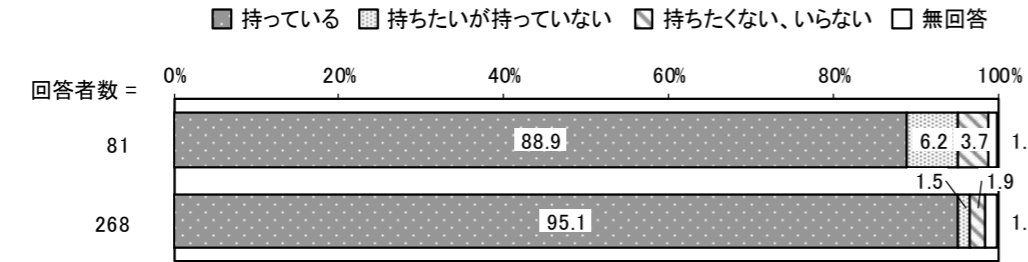
【小学5年生】



【中学2年生】



【16～17歳】

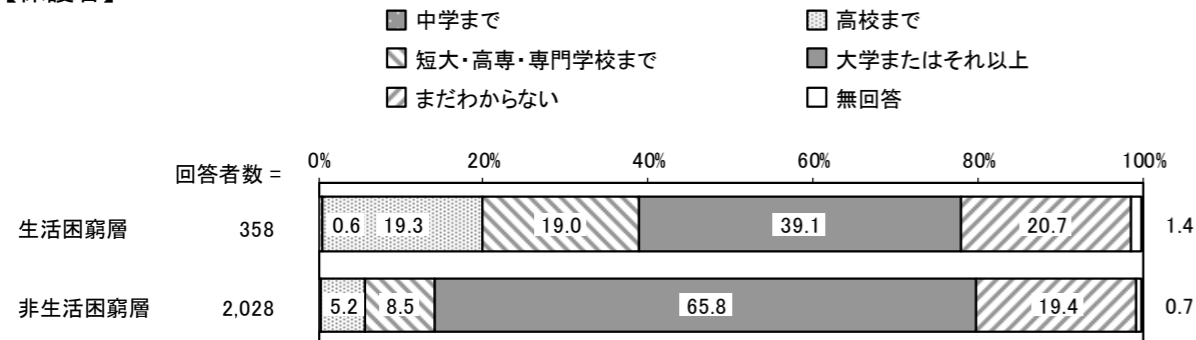


Ⅲ 子どもの教育の状況

(1-1) 保護者が子どもにどの段階まで教育を受けさせたいと考えているか

非生活困窮層で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっており、生活困窮層では非生活困窮層に比べ「短大・高専・専門学校まで」「高校まで」の割合が高くなっています。

【保護者】



(1-2) (1-1) の回答理由(「まだわからない」、「無回答」をのぞく)

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「お子さんがそう希望しているから」「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっています。一方、生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「一般的な進路だと思うから」の割合が高くなっています。

【保護者】

単位：%

区分	回答者数(件)	お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から考えて	家庭の経済的な状況から考えて	その他	特に理由はない	無回答
生活困窮層	279	33.3	40.1	13.3	19.7	9.7	7.2	1.1
非生活困窮層	1619	23.8	55.7	14.9	6.7	10.7	8.5	0.7

(2) 今後通いたい学校

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「専門学校」「高等専門学校」の割合が高くなっています。一方、生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「四年制大学」の割合が高くなっています。

【16～17歳】

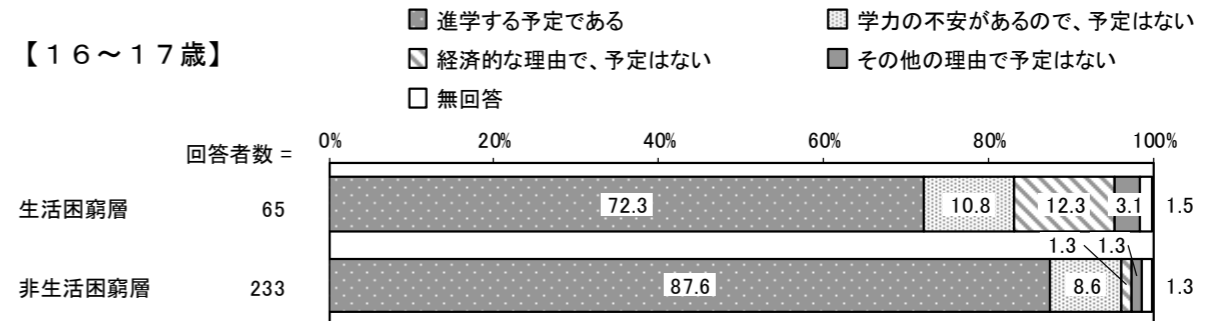
(複数回答可) 単位：%

区分	回答者数(件)	制高等学校(全日制)	制高等学校(定時・通信制)	高等専門学校	専修学校(高等課程)	専門学校	短期大学	専修学校(専門課程)	四年制大学	大学院	その他	今後、進学したいとは思わない	無回答
生活困窮層	81	1.2	1.2	7.4	-	23.5	7.4	1.2	51.9	6.2	3.7	14.8	4.9
非生活困窮層	268	3.4	1.5	1.1	-	14.9	6.7	1.9	64.6	4.5	2.6	11.2	1.9

(3) 今後の進学予定について

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「進学する予定である」の割合が低く、「経済的な理由で、予定はない」の割合が高くなっています。

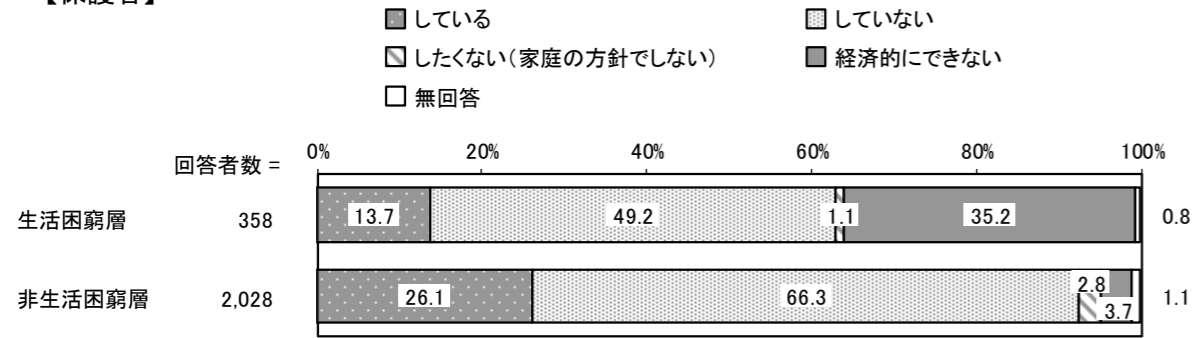
【16～17歳】



(4) 学習支援（塾や家庭教師の利用）について

生活困窮層において「経済的にできない」の割合が高くなっています。

【保護者】



(5) 勉強がわからないときは、誰に教えてもらうか

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「親」「塾や習い事の先生」の割合が低く、「教えてもらえる人がいない」で高くなっています。

【小学5年生、中学2年生】

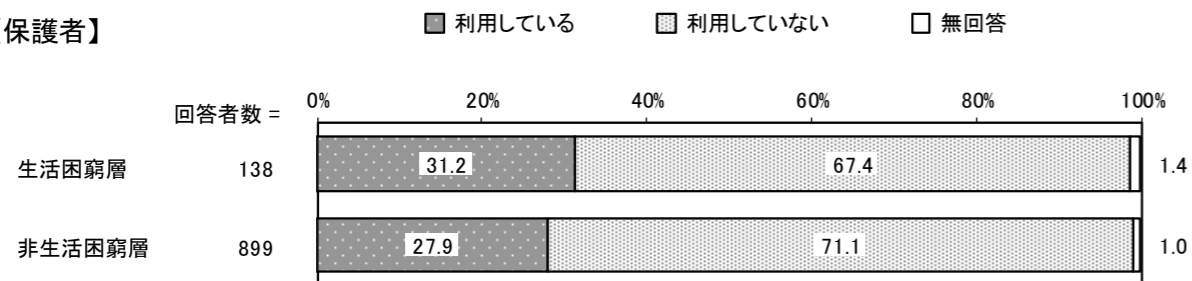
(複数回答可) 単位：%

区分	回答者数(件)	親	親以外の家族(兄弟姉妹やおじいちゃん、おばあちゃんなど)	学校の先生	塾や習い事などの先生	児童館や放課後児童クラブ(学童保育)などの先生	その他の大人	友だち	教えてもらえる人がいない	無回答
生活困窮層	135	55.6	26.7	34.1	11.9	2.2	5.2	48.9	5.9	1.5
非生活困窮層	684	72.7	25.0	36.5	26.0	1.3	2.2	49.1	1.3	1.5

(6-1) 放課後児童クラブの利用について

生活困窮層別で、大きな差異はみられません。

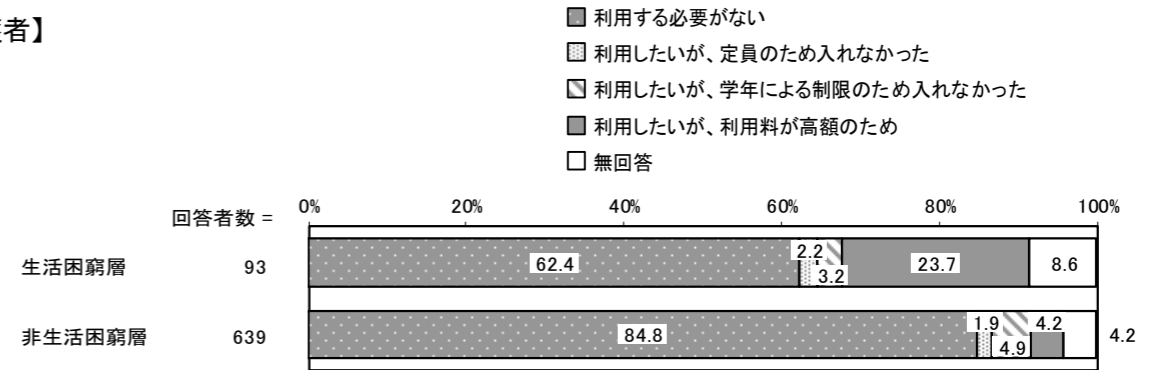
【保護者】



(6-2) 放課後児童クラブを利用していない場合の理由

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「利用したいが、利用料が高額のため」の割合が高くなっています。

【保護者】

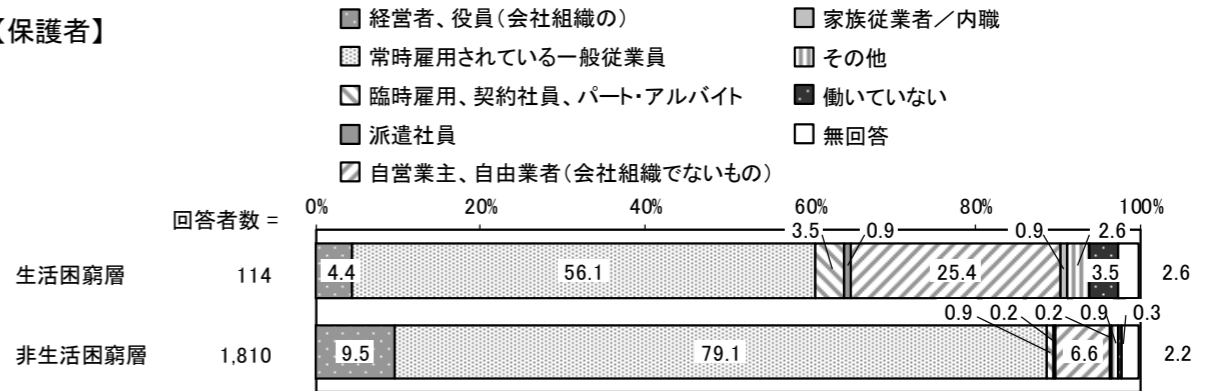


IV 就労の状況

父母いずれの就業状況においても、生活困窮層において「常時雇用されている一般従業員」の割合が低くなっています。

(1) 父親の就業状況

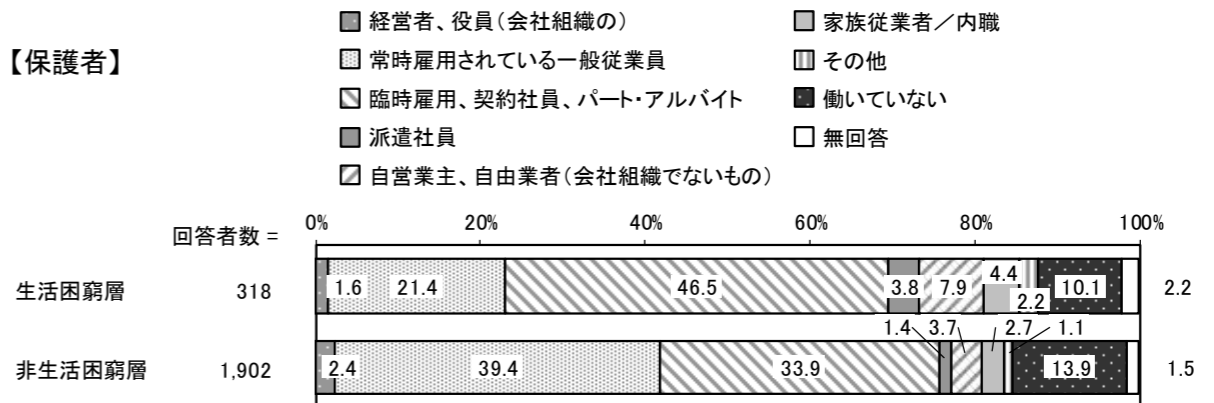
【保護者】



(2) 母親の就業状況

生活困窮層において「臨時雇用、契約社員、パートアルバイト」の割合が高くなっています。

【保護者】

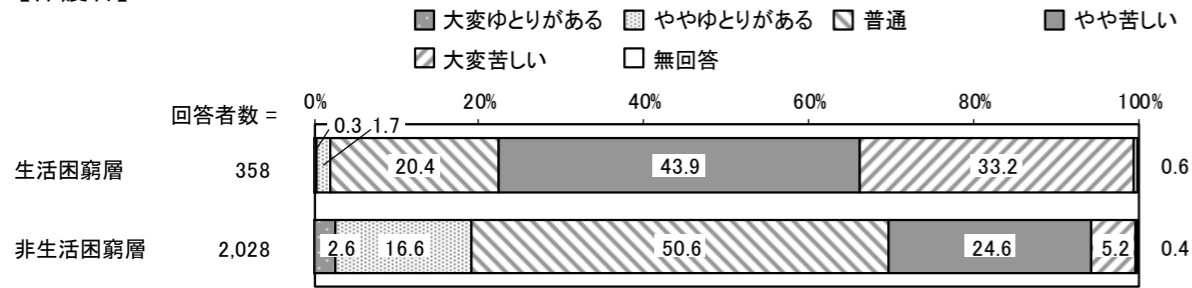


V 世帯の経済状況

(1) 現在の暮らしの状況について

生活困窮層において「やや苦しい」「大変苦しい」の割合が77%と高く、非生活困窮層と大きな開きが見られます。

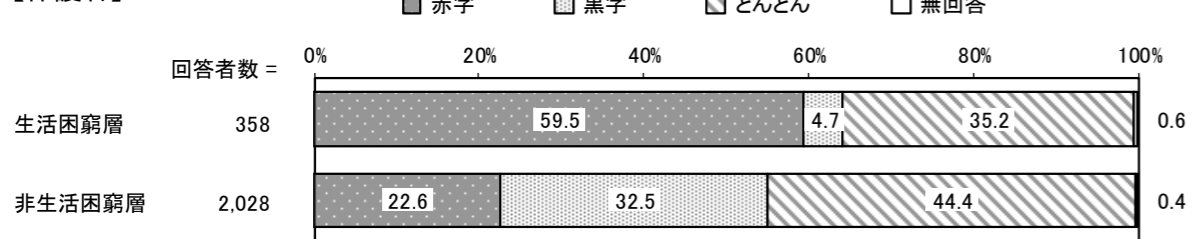
【保護者】



(2) 月々の収支について

生活困窮層において「赤字」の割合が高くなっています。

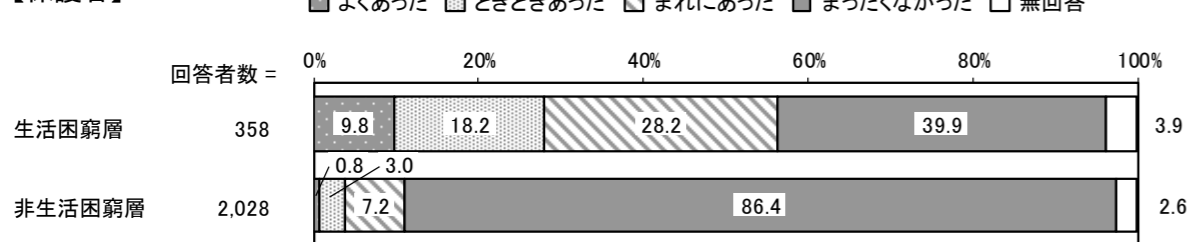
【保護者】



(3) 過去1年間にお金が足りなくて、家族が必要とする食料・衣類を買えないことがあったか

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「よくあった」「ときどきあった」の割合が高くなっています。

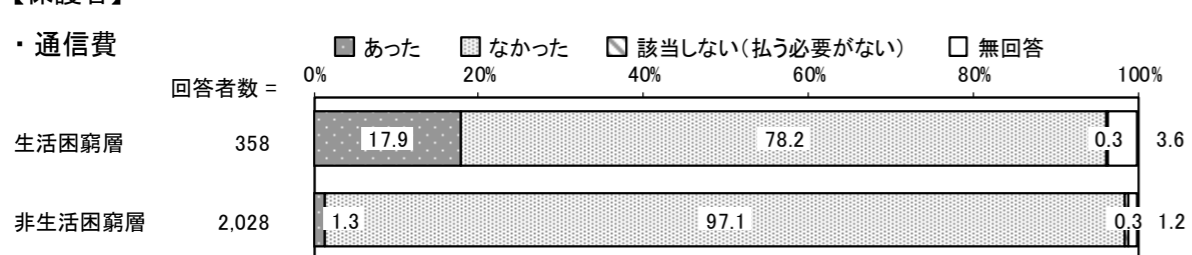
【保護者】



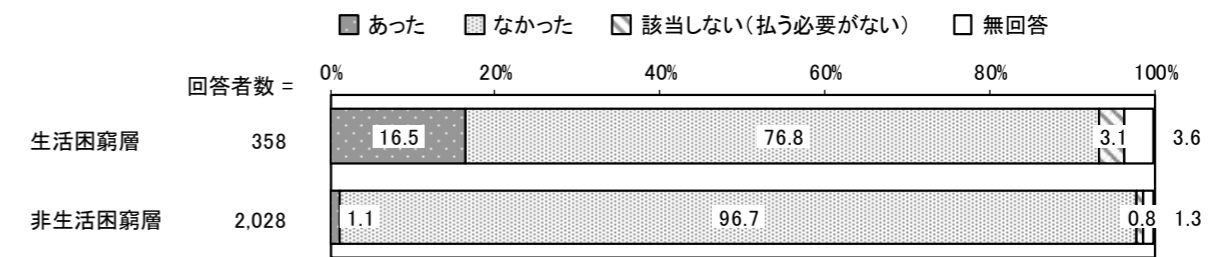
(4) 過去1年の間に経済的理由でサービス・料金について支払えないことがあったか

いずれの項目においても、生活困窮層で「あった」の割合が高くなっています。

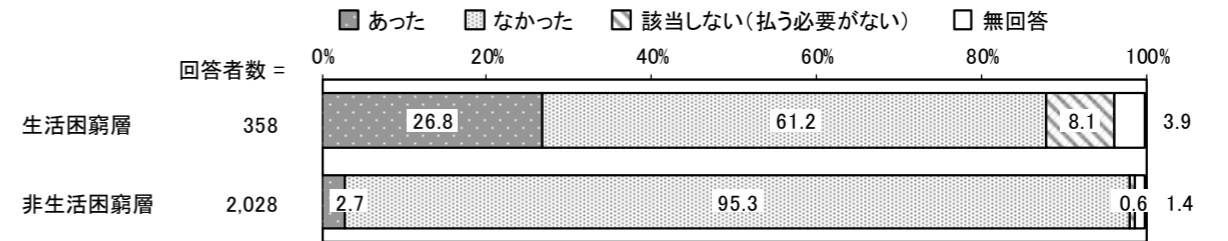
【保護者】



・光熱水費



・税金、国民健康保険、国民年金



VI 周囲の人や支援者との関わり【保護者】

(1) 子どもが病気の時や、自分が用事の時に頼れる親族や友人がいるか

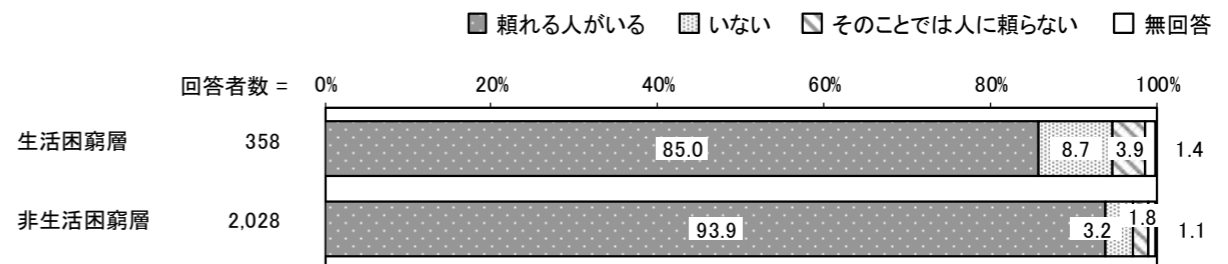
生活困窮層・非生活困窮層で「いる(市内)」の差はほとんどみられませんが、生活困窮層で「いない」の割合が高くなっています。

(複数回答可) 単位：%

区分	回答者数(件)	いる(市内)	いる(市外、県内)	いる(県外)	いない	無回答
生活困窮層	358	65.9	18.2	6.7	14.5	2.5
非生活困窮層	2028	66.8	24.9	13.5	9.9	0.9

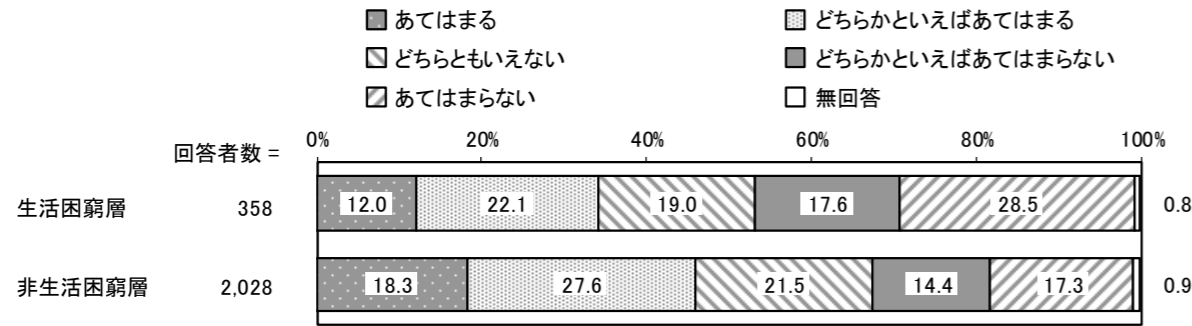
(2) 子育てに関して相談相手がいるか

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「いない」の割合が高くなっています。



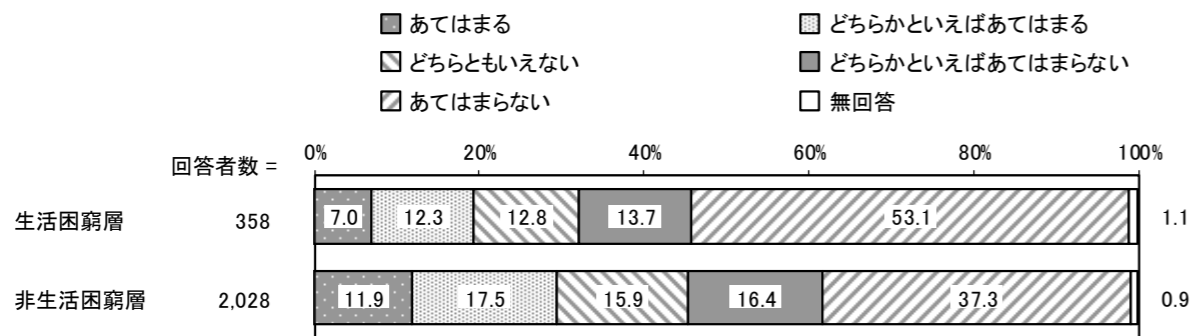
(3-1) 町会の行事にはよく参加するか

生活困窮層で「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の割合が低くなっています。



(3-2) 町会以外（婦人会、子ども会、趣味のサークル等）へよく参加しているか

生活困窮層で「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の割合が低くなっています。



VII 制度利用、支援への要望

(1) 保護者が現在必要・重要だと思う支援

生活困窮層では、非生活困窮層に比べ、「離婚のことや養育費等の法的相談」「一時的に必要な資金を借りられること」「就職・転職支援」「食料品・日用品の支給」「学用品の支給」は高くなっています。また、非生活困窮層・生活困窮層のどちらも「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」の割合が高くなっています。

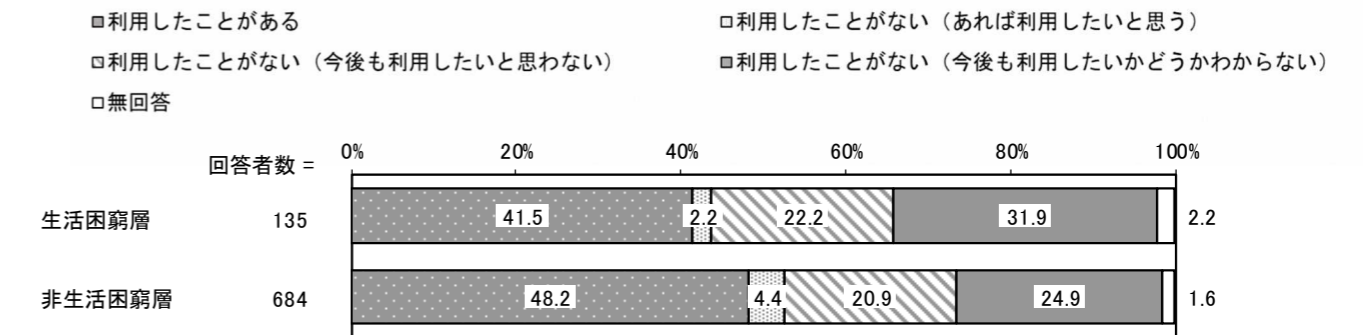
【保護者】 (複数回答可) 単位：%

区分	回答者数(件)	子どものことや生活のことなど悩みごとの相談ができること	同じような悩みを持った人同士で知り合えること	離婚のことや養育費のことなどについて法的な相談ができること	病気や障害のことなどについて専門的な相談が受けられること	病気や出産、事故などの事情があった時に一時的に子どもを預けられること	子どもの就学にかかる費用が軽減されること	一時的に必要な資金を借りられること	就職・転職のための支援が受けられること	食料品・日用品の支給が受けられること	学用品の支給が受けられること	その他	無回答
生活困窮層	358	29.6	19.8	15.6	19.0	20.9	75.7	20.1	27.9	37.4	51.7	9.2	5.6
非生活困窮層	2028	32.7	20.6	7.7	17.3	20.3	55.9	4.8	13.5	9.9	21.0	6.1	14.1

(2) 子どもが利用してみたい支援・サービス【小学5年生・中学2年生】

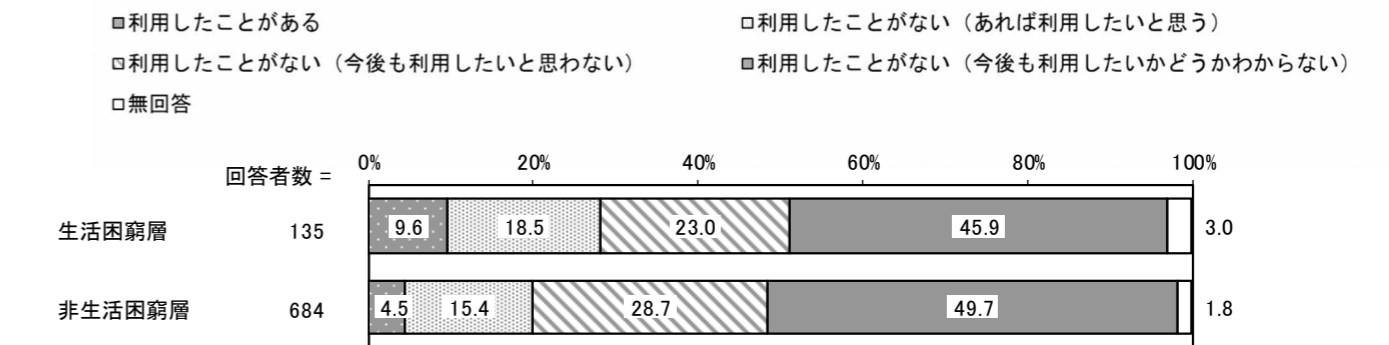
・放課後や休日を過ごすことができる場所（児童館・児童館放課後児童クラブなど）

生活困窮層に比べ、非生活困窮層で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「利用したことがない(今後利用したいかどうか分からない)」の割合が高くなっています。



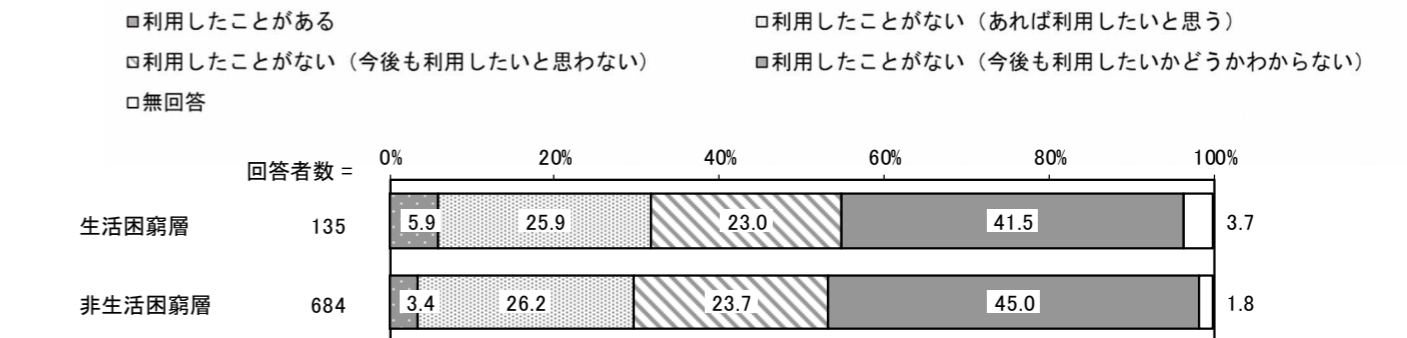
・タごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「利用したことがある・利用したことがないがあれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



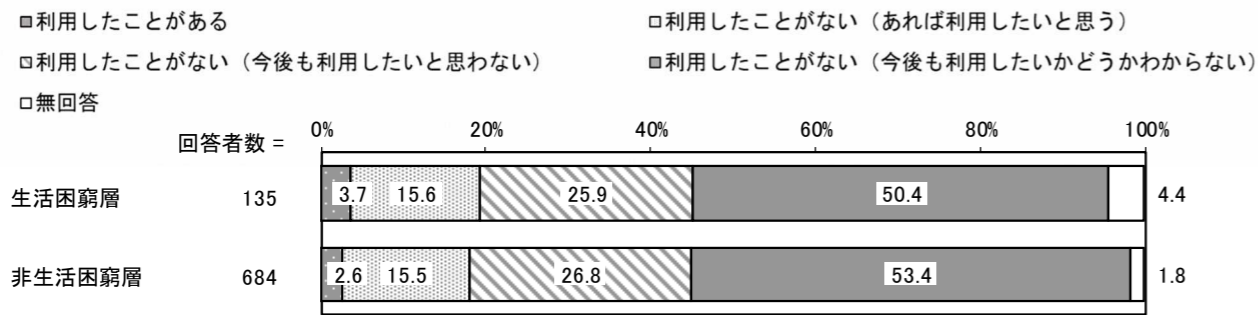
・勉強を無料でみてくれる場所

生活困窮層別でみると大きな差異はみられませんが、生活困窮度に関わらず、約3割の子どもが利用を希望しています。



・何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

生活困窮層別でみると大きな差異はみられませんが、生活困窮度に関わらず、約2割の子どもが利用を希望しています。



（3-1）施策等の情報をどのように受け取っているか【保護者】

生活困窮層・非生活困窮層いずれも「学校からのおたより（紙）」「学校からのメール」の割合が高くなっています。

（複数回答可） 単位：%

区分	回答者数（件）	行政機関の広報誌	行政機関のホームページ	SNS（Facebook、LINE、ツイッターなど）	学校からのおたより（紙のもの）	学校からのメール	家族や友人からの情報	その他	無回答
生活困窮層	358	13.1	13.1	22.1	76.0	52.5	40.5	2.8	3.4
非生活困窮層	2028	24.3	17.9	24.0	84.6	52.3	44.0	3.1	2.6

（3-2）今後どのように受け取りたいか

生活困窮層・非生活困窮層のどちらも「学校からのおたより（紙）」「学校からのメール」の希望が高く、「SNS」の割合が（3-1）現在の状況よりも希望する割合が高くなっています。

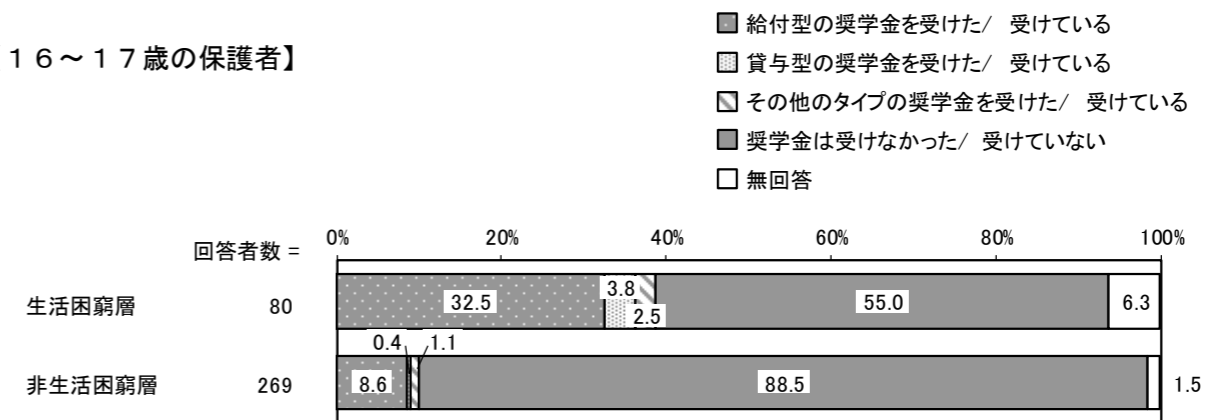
（複数回答可） 単位：%

区分	回答者数（件）	行政機関の広報誌	行政機関のホームページ	SNS（Facebook、LINE、ツイッターなど）	学校からのおたより（紙のもの）	学校からのメール	家族や友人からの情報	その他	無回答
生活困窮層	358	14.2	18.2	39.1	57.3	52.5	24.9	5.0	13.4
非生活困窮層	2028	20.2	20.6	39.0	59.4	52.8	28.8	2.4	12.0

（4）奨学金を受けたか

生活困窮層において「受けた／受けている」の割合が高くなっており、そのうち給付型の奨学金を受けた割合が貸与型よりも高くなっています。

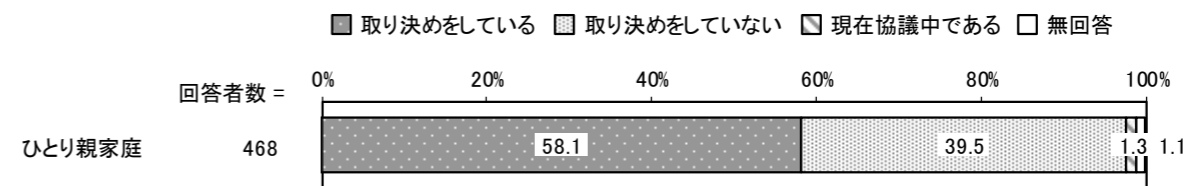
【16～17歳の保護者】



Ⅷ ひとり親家庭の状況【保護者】

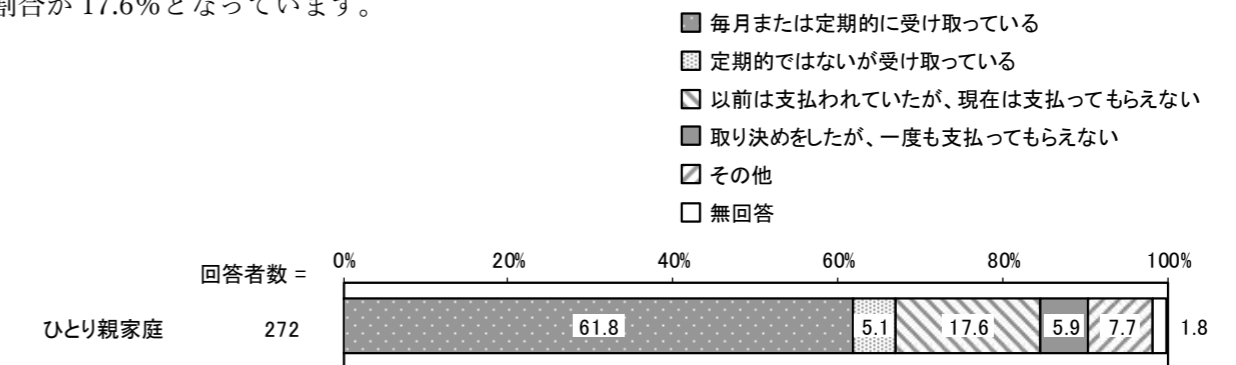
（1）養育費の取り決めについて

「取り決めをしている」の割合が58.1%、「取り決めをしていない」の割合が39.5%となっています。



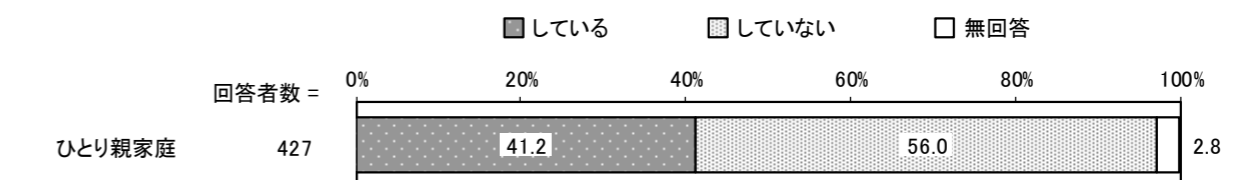
（2）養育費がきちんと支払われているか

「毎月または定期的に受け取っている」の割合が61.8%、「以前は支払われていたが、現在は支払ってもらえない」の割合が17.6%となっています。



（3）面会交流について

「している」の割合が41.2%、「していない」の割合が56.0%となっています。



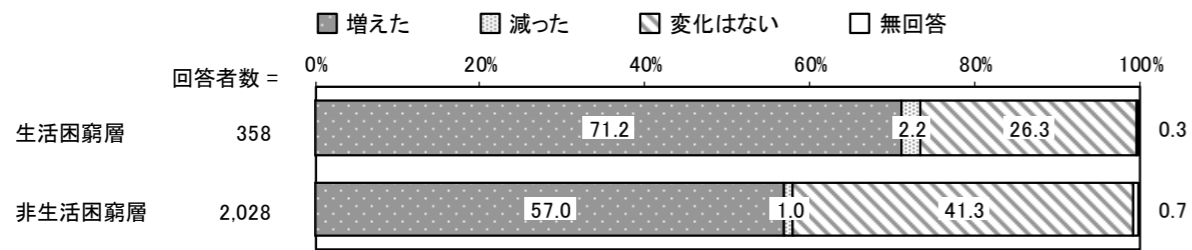


Ⅹ 新型コロナウイルスの影響

(1) ストレスや不安な気持ち

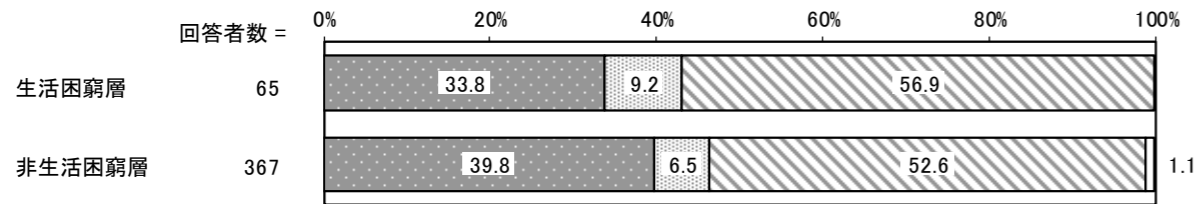
【保護者】

生活困窮層で「増えた」の割合が高くなっています。



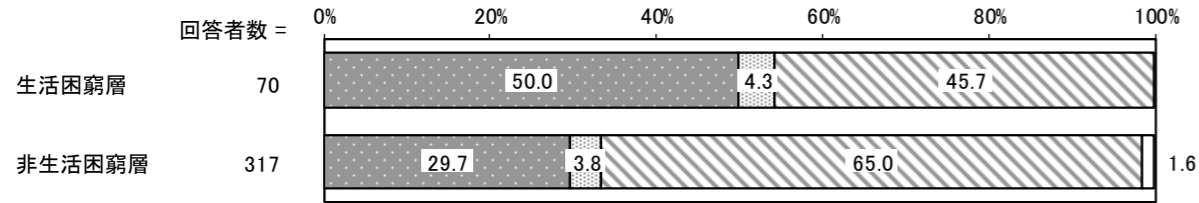
【小学5年生】

生活困窮層別でみると、大きな差異はみられません。



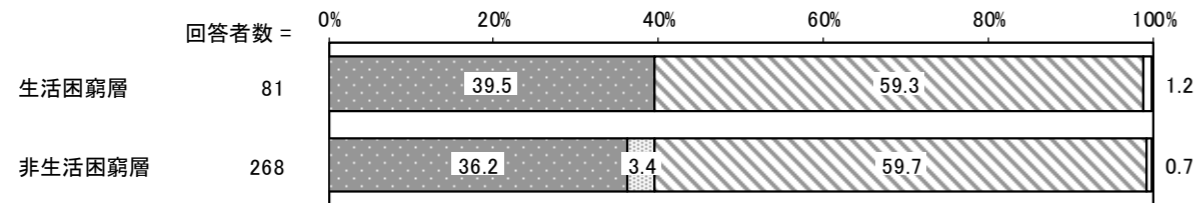
【中学2年生】

生活困窮層で「増えた」の割合が高くなっています。



【16～17歳】

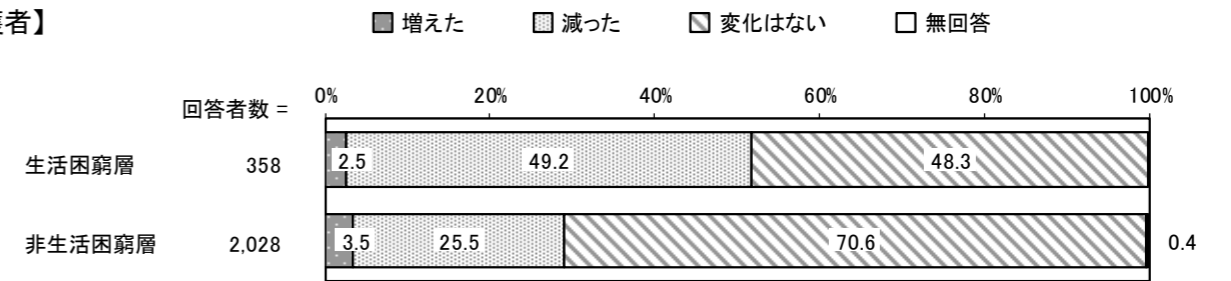
生活困窮層別でみると、大きな差異はみられません。



(2) 収入

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「減った」の割合が高くなっています。

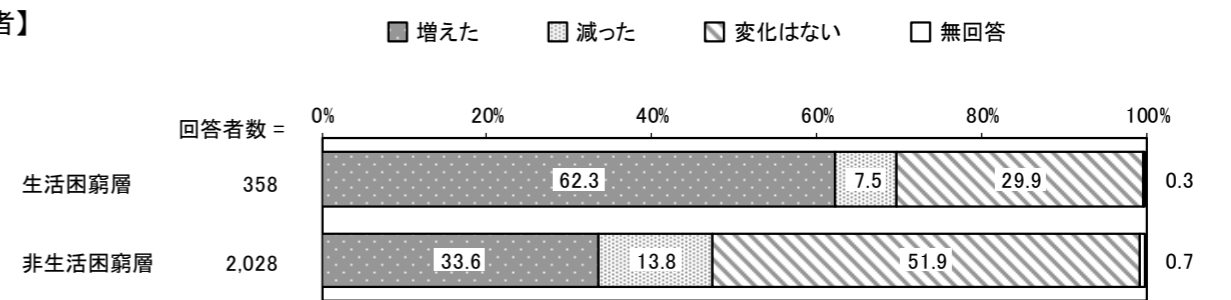
【保護者】



(3) 支出

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「増えた」の割合が高くなっています。

【保護者】



(4) 勤務日数や勤務時間

非生活困窮層に比べ、生活困窮層で「減った」の割合が高くなっています。

【保護者】

